

大学の刻

この時刻
個性を放つ
キャンパスシーン

12:30

No.1

武蔵野大学

街と溶け合うキャンパスを象徴

●ロハスカフェのランチタイム



1 大きな木の下にあるカフェをイメージし、安らぎの空間を演出。2 間伐材で作ったシンボルツリー「ロハスの木」。3 オープン当初は、体に優しく手軽に食べられるメニューが中心だったが、最近は利用者からリクエストが多いご飯ものを増やした。



ベビーカーを押す 母親グループの姿も

「週に何回か、お昼休みをしっかりとれる日に来ます。おいしくておしゃれて、くつろげる」。近くのメーカーに勤める若い女性はそう話す。取材日は、あいにくの空模様で店内には学生が多かったが、普段の利用者は学内6割、学外4割だという。近くに保育園があり、「15時頃になると、ベビーカーを押す母親グループも見られる」と河野圭亮店長。

地域に開かれたロハスカフェは、環境学部環境学科の授業「環境プロジェクト演習」から生まれた。新キャンパスをエコキャンパスにという理念の下、地域に環境情報を発信する場として、学生が学長と法人本部にカフェの設置を提案した。「アフリカの貧困問題と環境の問題について知ってほしい」という学生たちのメッ

セージ発信のため、現在、バナナペーパー製のペーパークラフトをテーブルに飾っている。



企業との連携で 実践的教育を展開

有明キャンパスの周辺には企業のオフィスが多く、大学は産業界との連携による実践的な教育に力を入れている。このカフェの運営でも、雑誌『ソトコト』を発行する(株)木楽舎の協力を得て、メニューづくりなどの会議を重ねた。学生は、輸送時に排出されるCO₂の削減のため、東京産の食材を希望したが、木楽舎は、コストと安定的な食材確保の観点から関東圏へのエリア拡大を提案。学生にとっては理想と現実との調整を学ぶ機会となった。

店内中央のロハスの木は、学生が間伐した木材を利用して制作。安らぎの空間づくりに一役買っている。